

歴史 の風

ふくおか 文化財だより



Vol.25 2020年2月号

～ 新たな国指定文化財 ～

はか た まつ ばやし

博多松囃子が 重要無形民俗文化財に！

国の文化審議会は令和2年1月17日、福岡市を代表する民俗芸能である「博多松囃子」を国重要無形民俗文化財として指定するよう、文部科学相に答申しました。指定されると、市内に所在する国の重要無形民俗文化財は「博多祇園山笠行事」に続き2件目となります。



恵比須



福神と傘鉾



稚児舞



大黒と傘鉾

「博多松囃子」は中世から博多の人々に受け継がれてきた正月祝賀の行事で、毎年5月に行われる「博多どんたく港まつり」のルーツにあたります。現在では、三福神を福神、恵比須、大黒の各流、稚児舞を稚児東流と稚児西流が担当しています。

～文化財の保存活用に関する基本方針～

文化財継承のための保存・管理

昨年、策定した「福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針」(※1)では、文化財を次世代に継承していくため、適切な保存・維持管理や修理復旧を行うことを述べています。

長い時間を超えて受け継がれた文化財には、脆く壊れやすいものが数多くあります。我が国の文化財の保存では、環境を整え、取り扱いに細心の注意を払うことで劣化を防ぐことが原則です。博物館、美術館、埋蔵文化財センターでは、収蔵庫や展示室の温度・湿度が厳密に管理され、害虫やカビが繁殖しないよう資料の状態も常に点検されています。



福岡市美術館 粉塵対策としての養生作業

平成31年3月にリニューアルオープンした福岡市美術館では、改修工事中の収蔵品の保全が一大プロジェクトでした。『福岡市美術館 研究紀要』第6号(※2)では、多数の絵画に覆いをかけて工事の振動により発生する粉塵に備えたり、フィルムを収納する映像資料室と仮収蔵スペースとの間に4℃の温度差があるので、急激に環境が変化しないよう、移送前に映像資料室の温度を1週間かけてあげていった(シーズニング)ことなど、多様で細やかな作業をしたことが報告されています。このようにノウハウの共有をはかることも、文化財の継承のために重要な意義をもっています。

※1 「文化財の保存活用に関する基本方針」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/news/detail/210>

※2 『福岡市美術館 研究紀要』

<https://www.fukuoka-art-museum.jp/publications/?cat=bulletin>

～ 国史跡 野方遺跡・金隈遺跡のメンテナンス ～

ブラシとほうきで遺跡を守ります！

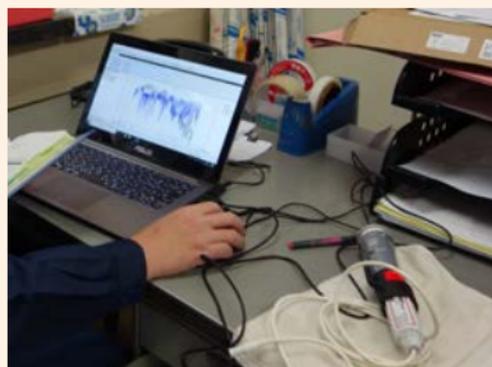
の かた い せき じゅう きょ あと かねのまい せき かめ かん
野方遺跡住居跡展示館（西区）と金隈遺跡甕棺展示館
（博多区）は、2年かけて露出展示している遺構の修復・
整備が終わり、令和元年5月11日にリニューアルオープンしま
した。その後、引き続き遺構面の状態を保存するためにメンテ
ナンスを行っています。



ブラシで遺構表面をきれいにしている様子
野方遺跡

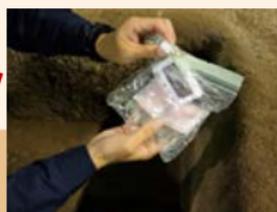


ほうきで塩類（白）を取り除いている様子
金隈遺跡



遺構に設置した温湿度計を
パソコンで読み取っている様子

野方遺跡では、遺構の
表面を幅20cm程のブラシで
ほごりをはらい、金隈遺跡
では、小さなほうきで遺構
表面の塩類えんるいを取り除いてい
ます。このようなメンテナンス
は、休館日（月曜日）を
利用して3か月に1度、実
施しています。両遺跡ともメ
ンテナンスと同時に、温湿
度計を使って館内の環境を
モニタリング（測定）してい
ます。藻類や塩類の発生に
温度・湿度がどう関係して
いるかをつきとめ、遺構をき
れいに保つ一番適した環境
を探っているところです。



～埋蔵文化財センターだより～

保存処理成果展が始まります！

埋蔵文化財センターでは、遺跡から発見された出土品の中で、木材や金属等の劣化のおそれがあるものについて、理化学的な保存処理を行っています。木製品では、樹脂や糖類の溶液に漬け込んで木材を補強することにより、変形を防ぎます。金属では、グラインダーやエ
アブラシで土や錆^{さび}を取り除いた後、錆の原因となる物質（水・酸素・塩素等）から遺物をまもる処理を行います。



蛍光X線を使用して分析している様子

このような保存処理作業の成果をまとめた『甦^{よみがえ}る出土遺物展』を、2月4日(火)から5月10日(日)まで開催します。今回の展示では、福岡大学の調査・研究や市史編纂事業^{こう}、庚寅^{いんめい}銘大刀の重要文化財指定等をきっかけに、収蔵品をあらためて保存処理した結果、新たにわかったことについてもご紹介します。和田部木原遺跡出土の刀子が銀装であったこと、大牟田古墳群出土の馬具に、製作技法や使用状況に迫る手掛かりとなる布や木質が付着していたこと、鉛ガラスの製作技法と材料の分析から国産か朝鮮半島産かがわかる可能性があることなど、ドキドキわくわくする新発見がもりだくさん！ぜひ、福岡市埋蔵文化財センターへお越しください。



庚寅銘大刀が出土した元岡古墳群G-6号墳出土鉛ガラスと柏原古墳出土鉛ガラス

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



～ 土器に描かれた思い ～

“♡”マーク？

福岡市内のとある遺跡の発掘調査で一見すると、「ハート」のように見える文様が描かれた土器が出てきました。



ハートマーク
に見える文様
〔 須恵器 〕

す え き
須恵器と呼ばれる土器の器面に墨で描かれたこれらの文様は、「猪の目」と呼ばれる文様とよく似ています。猪の目とは寺社やお城の装飾等にも古くから使用される文様で、魔除けや火除けの印として使用されてきました。そのような印を土器の底に描いた理由は、一体なんだったのでしょうか？印が描かれた土器は、食べ物などを盛る器として使用されたと考えられます。何か特別な宴会の際に饗膳具（食器）として使われたのでしょうか。見えないところに描かれた印は、土器を使う人々の健康や安全を祈願したのかもしれませんが。



福岡城跡にある名島門



名島門の戸の金物に見られる猪の目

土器に描かれた小さな文様は、秘められた古代の人々の思いを映し出すようです。

→ 2・3月のイベント情報

2月

20日 2000年都市の歴史資源と地域共創シンポジウム

～ 早良みなみ編 ～

場所：西南学院大学 西南コミュニティセンターホール
(早良区西新6-2-92 東キャンパス) ※

22日 埋蔵文化財センター 速報講座 ①

「甦る出土遺物 - 平成30年度保存処理成果から - 」

講師：福岡市埋蔵文化財センター職員

25日 2000年都市の歴史資源と地域共創シンポジウム

～ 博多旧市街編 ～

場所：アジア美術館 あじびホール (博多区下
端町3-1リバレインセンタービル 8階) ※

※ 詳細は、市政だより2月1日号または下記ホームページをご覧ください。



かゆ占の様子

3月

1日 飯盛神社のかゆ占 (県指定無形民俗文化財)

場所：飯盛神社 (西区大字飯盛609)

21日 イベント「遺物写真撮影会」

場所：埋蔵文化財センター



遺物写真撮影会

28日 埋蔵文化財センター 速報講座 ②

「発掘調査総まり - 2019年度市域内調査から - 」

講師：福岡市埋蔵文化財課職員

令和元年度企画展

※記事内で紹介しています。

「甦る出土遺物 - 平成30年度保存処理成果から - 」

期 間 2月4日 (火曜日) から5月10日 (日曜日) まで

場 所 埋蔵文化財センター 第3展示室 <月曜休館>

住所：博多区井相田2-1-94

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL:092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！

